

Capo. 0 オープンD [R]
Capo. 2 オープンG [L]

私のたからもの

私の大切な小さなたからもの
 ロールケース入りの50色の鉛筆
 同じ赤でもいろいろな赤がある
 明るく楽しい赤、暗くて怖い赤

Chords: C#m, C#m, Bm, Bm, 5, 7, 0, 2, 0, 5, 0, 2, 0, 7

Chord diagrams: [Open D], [Open G], [Open D], [Open G]

いつも旅先でバックにしまってた
 その時のそびで 見える景色も違う
 同じ緑でもいろいろな緑がある
 一つのものでなくたくさんあるのがいい

※セーは二本指で!

空を見上げて 海を見渡して

物思いにふけることも幸せ

同じ青でもいろいろな青がある

すみ渡る青と 深く重たい青

たくさんある中で一つしかない色

たいていこのたからで使っていない色

いろいろな色のせる画用紙と同じで

清らかな白色、かわかえりな色

大切なもの

Capa → ノール C [R]

Cap. 0 オープン D [L]

D

それしか見えない
 ♯ 0 ♯ 0 ♯ 0 ♯ 0 Bm ♯
 F C F C F C G Am G



斜め後ろ向く若い女性の絵が

♯ 0 ♯ 0 ♯ 0 ♯ 0
 G C G C

ふと気づくと横向く老婆に

♯ 0 ♯ 0 ♯ 0 ♯ 0
 F C F G C

一度どう見えたかそれしか見えない

♯ 0 ♯ 0 ♯ 0 ♯ 0 Bm ♯
 F C G Am G

最初の若い女性が 見えない

かぶってたりボン付きのおしゃれな帽子

ふと気づくと横たわる猫に

一度どう見えたかそれしか見えない

最初のおしゃれ帽子が見えない

左向く茶色のうさぎのひた耳

ふと気づくと右向くアヒルのくちばし

一度どう見えたかそれしか見えない

最初のうさぎが意識の外

おげあさし おいさし お互い向かいあつ

ふと気づくとこちら向く若い男女

一度どう見えたかそれしか見えない

最初の二人がもう見えない

大きな口を持った くびれたツボはさんて

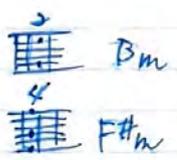
向かいあつて眺める二つの横顔

一度どう見えても っけかりあつて

何度でも 見直せるものがある

うちよせる波

O Bm 5 7 O Bm 5 7
C Am F G C Am F G



O C F#m 5. 5.
C Em Dm Dm7

手に持ったサンダル
鼻緒で痛く(7)

O C F#m 5. 5.
C Em Dm Dm7

陽がのびた海岸
ネイビーのラッシュボード

・ 5弦(+2)

Bm 7 F#m Bm
Am 7 Em Am

よせよ返す波の音聞えなかつた

Am 7 F#m Am
Am 7 Em Am

昔の歌口が土まみ 足元濡らして

O F#m 5. 5.
C Em Dm Dm7

踏みしめた砂が
波に溶けてなくなる

O F#m 5. 5.
C Em Dm Dm7

その瞬間の刺激
心地よいマッサージ

F#m 7 C 7 G7

C Am F G C Am F G

C Em Dm Dm7
思い出す歌のなか

Dm G C G7
情景がよみがえる

C Em Dm Dm7
砂に書いた文字が

Dm G C G7
消えること歌ってた

Am 7 G Em Am
明日は離れ離れになるさみし

Am 7 G Em Am
その気持ちで感じるこのシチュエーション

C Em Dm Dm7
時折ふく風が

Dm G C G7
波ですすしくなる

C Em Dm Dm7
その瞬間のイヤ

Dm G C G7
波れを忘れて

(Capo. 5 1-2il C [R])

Capo. ↓ オ-7 = D [L]

F

X モ リ ア IV

Bm 5 Bm 5 0 . (3弦+2)

Am Aug Fmaj7 Am Aug Fmaj7 C  Bm

Woo Woo Woo x2  F#m

0 5 5. 0

C F Dm C

ゆく夏に共に過ごした

0 5 5. 7 0

C F Dm G C

今では見えなくなつた人

Bm 5 7 0

Am F G F

心のどこかで 一つも一つでも

Bm 5 7 0

Am F G C

何かあつても 今ではいなくなる

5 7 7. Bm 5 7 0

F G Em Am F G C

缶の間はさらに近くいるはずなのにさみしい

7G 0 F#m Bm

* 過ぎ去つた (過ぎ去つた日々に)

0 F#m Bm

C Em Am

なつかしい (なつかしい思い出)

0 F#m Bm

C Em Am

よみがえる (今よみがえる)

0 F#m Bm

C Em Am

この歌に (この歌に替えて)

**

Woo Woo Woo

こうして 遺影の前には立ち

流れる時間 静かに過ぎる

心のどこかで 一つも一つでも

目を閉じるたびに すぐに出会える

改まる時 さらに近くいるはずなのに 儚しい

若かった (若かった日々に)

楽しかった (楽しかった思い出)

よみがえる (今よみがえる)

この歌と (この歌に替えて)

* ~ *

Cap. 5 い-マ-ル C [R]

Capo. の オ-フ-ン D [L]

縁 と 叶 かり



「縁」は偶然で不思議な「叶かり」

「叶かり」は必然で過去との「叶かり」

いい時もあるけど悪い時もある

けれど断ち切りたくない

つながりなくとも自分の「運命」だけは

かきかえのたいと与えてもらえるもの

「縁」と「叶かり」と「運命」も共に
「恩」の字に変えた

「縁」は自分で作れないもの

「叶かり」も自分で作れないもの

いいこともあるけど悪いこともある

けれど無くしたくない

自分の力で作れる「運命」だけは

けれどそれも最後は変えられない

「縁」と「叶かり」と「運命」も共に

「恩」の字に変えた

黄色い田んぼ

7.0. 8. 9. 10. 11. 12.

D E G A E

7.0. 0.5. G.
D. G.
秋の田のかしほのいおのとまをあらみ

7.0. 0.5. G.
D. G.
夜露濡れる リアを悲しむのでなく

9. 0.7. 9. 7.2. 0.7.
E. D. E. A. D.
夜を静かに黙想するよりの静寂

0.7. 0.5. G.
D. G.
大事な稲刈りを明日に控えて

0.7. 0.5. G.
D. G.
泊まり番する昔の人のように

9. 0.7. 9. 7.2. 0.7.
E. D. E. A. D.
辛いばかりでなく 喜びもあったろう

7. 9. 11. 0. 2.
0. 9. 11. 5. 7.
D. A. E. E. F#m. G. A.

秋の夜 清々しさが

0.5. 2.7. 7.0. 4. 0.5. 2.7. 7.0.
G. A. D. D. G. A. D.
心待ちに つながる時

黄色い田んぼ 日差し後Hで輝き

黄色でなつてまことに黄金色にたひ)

その風景は壮大な ひんぎよになる

すし墨って透明な風が吹いて

トンボの羽 時々キラリと輝く

墨った時 穏やかに 明るく じやうたん

秋の風 透明さが

心待ちに つながる時

Capo. 3 1-マール(D)

Capo. 3 オープンD

ないないない

~~マール~~は冷静に!!

G D G D G D E A D

D E_n D
60過ぎて乗になるはずか

D E_n D
働かないと暮らしてゆけない

E_n D
あと5年、10年 (あと)

E_n D
頼りになるのは健康だけ

D E_n D
たまには旅行したい、H&C

D E_n D
近頃は3でせいせい、泊

E_n D E_n D
どこに行くのも (草) 油りなせはお酒も飲めない

G D
ないないないない、何もなし、 } ①

” 金なし、
” 暇なし、

” 何もない、
” 仕事なし、 } ②

” やるせない、
” 何もなし、 } ③-1

” 恐いなし、
” 情けなし、

” 何もなし、
” つまらなし、 } ③-2

” しらべがない

1-マール + オープンD

休日やりたいことあったはずか

早起きするだけ、すぐに疲れ昼寝

その後買い物 (ぶらり)

あまり買うものもないけれど

結局大したことでもない、する

いつもと同じ夜の寝床につく

昼寝の分だけ余計な睡眠が増えただけ

自由なくらし望みながら

毎日何かは縛られ続けている

9時5時の勤務 (おわて)

帰宅して食べて寝るだけ

たまには飲みに行くこともあるけど

人の悪口聞いたために終わる

体をめざと不調に (してない)

付き合い、こたえるために

Capo. 2

(A)

夕暮れの中で

G Em An D

^G ^{onF#} ^{Em} ^{An} ^D ^{Em}
新しくできた 海岸公園の中を走って
(あたらしい海) (わたすらに)

^{An} ^G ^{An} ^G
夕暮れ前の海は 明るく空に混じって

^{An} ^{D7} ^G
わたしの心の中も照らして笑ってる

夕暮れの中で (静かに笑う)

ただわたすらに 追っかける眩しさ (キラキラと)

ベンチに腰かけて 遠い山と島々を

黄色く燃える日玉の下に映し出して

1-3.L

この頃の夕暮れは

さみしくなることもなく

わたしの心の中にまとも) 輝いている

(あなたか) そばにいるから

(あなたか) そばにいてくれるから

菜の花

D G D A D G A D

^D何もな^Aい^G道^Dを抜けたら

^D黄色く^Aまぶ^Gしい^D世界^Aが^D広がる

^G見^Dている^Aおかげ^Dで^A嬉^Dしく^Aさせて^Dくれる

^G陽^Dに映^Aえて^D美^Aしく^D風^Aに揺^Dられて^D暖^Dかく

^Dひとつ^Aでは^G頼^Dりな^Aい^D菜^Dの花

^Dま^Aとま^Gる^Dこと^Aで^Gあ^Dざ^Aや^Gかな^Dじ^Aやう^Dたん

^Gほ^Dしの^Aひと^Dとき^A楽^Dしく^Aさせて^Dくれる

^G5^D月^Aの青^Dい^A風^Dに^Aウ^Dズ^Aイ^Dブ^Aシ^Dながら^A

^Dもう^Gこの^Dま^Aま^G生^Dきて^Aゆ^Dこう^Aと

^E思^Gっていた^Aのに

^Dま^Aだ^Gま^Dだ^Aいい^Dこと^Aを^D求^Aめ^Dながら^A

^E探^Gしている^Aこと^Dに^D気^D付^Dく

ホームレスホープ

ひとりでは足りない。何かか

一緒にいることで満ち足りた気持ちに

ささやかな暮らしの他には何もいらない

これまでの全てを整理したはずだった

もう誰にも知らぬが...と

思っていたのに

まだまだふれあいを求めながら

探していることに気付く

もうこのまま生きてゆこうと

思っていたのに

まだまだいいことを求めながら

探していることに気付く